

# 火力利用実施指導

担当 吉真 嗣誠

## (一) 趣旨

期的に未済するフジの漁法指導を誘導漁具の整備に応じて実施したものである。

## (二) 期間

自1963年12月9日 至12月7日

## (三) 作業人員及び使用船舶

### (イ) 水研

かもめ丸 59.5t 16HP

乗組員 比嘉船長以下4名

### (ロ) 誘導漁船

小型動力漁船 5t未満  
8HP } 乗組員12名  
網船 5隻

## (四) 漁具及び設備

### (イ) 四隻張網の改造型 1統

### (ロ) 発電機 1基 100V 2.5KW

水上集魚灯 白熱電球100V

50W  
20W

誘導漁船所有

今回使用した網は誘導漁船員が四隻張網を改造して作成したもので網の一边には袋網を増設して漁法の改善を計ったもので変形的な網漁具である。

## (五) 経過及び指導状況

本漁業の操業設備は漁船側が上記の様に準備し、漁業方法や集魚灯の使用法等も漁船員は大体習得している模様であったので漁船員の意のままに作業せしめ、状況観察の上指導助言する事にした。漁場は中城湾内の平倉橋と岸登島中間、水深3(≒)5mの地点を(別図参照)選定して連続2晩操業実施した。

## 結果

初回は推定集魚量900K以上あったものと思われたが発電機に抵抗器がなく、電力の加減がとれず魚群をうまく誘導できなかったり其の上流の操作に不慣れがあったため漁獲は皆無であった。二日目は推定集魚量1,200K以上あつて南風より魚群量増加し、集魚状況は可成り良好であり、此等の魚群を網の中に誘導するのには抵抗器で電力を加減し、赤色の電球も適宜に併用したため集魚した魚群を誘導させるのに一層効果を上げる事が出来た。船で一旦投網して漁獲する段階になると、且り様な漁獲が出来ず集魚量短高の釣子に当る200K位の漁獲しか得られなかった。

このように魚群量多く集魚状況も良好であったが満足な漁獲が得られなかった事は遺憾であった。今回はその欠点を思考される事項を次のとおり指導助言した。

(1) 身網の幅員(イ)が1割弱であり少ないと思われるので2割以上の縮結にすること。

(2) 潮流を勘案して投網すること。

満ち風、引潮の流向を調べて身網を潮上袋網を潮下になるよう敷設し網の張り具合を完全にすること。

(3) 網の操作に早く慣れること。

なお、網の構造について再検討する必要はないかと所感を述べたが網袋も魚籠がかわしくなれば本漁業に最適と考えられる「小アジ」「小サバ」用浮袋網(別図参照)を(屯米湾の漁船に

速に作製して着業すれば操業人員も5~8名で間に合う事になり人的節減と効率的操業が期待されるので一応薦めておいた。

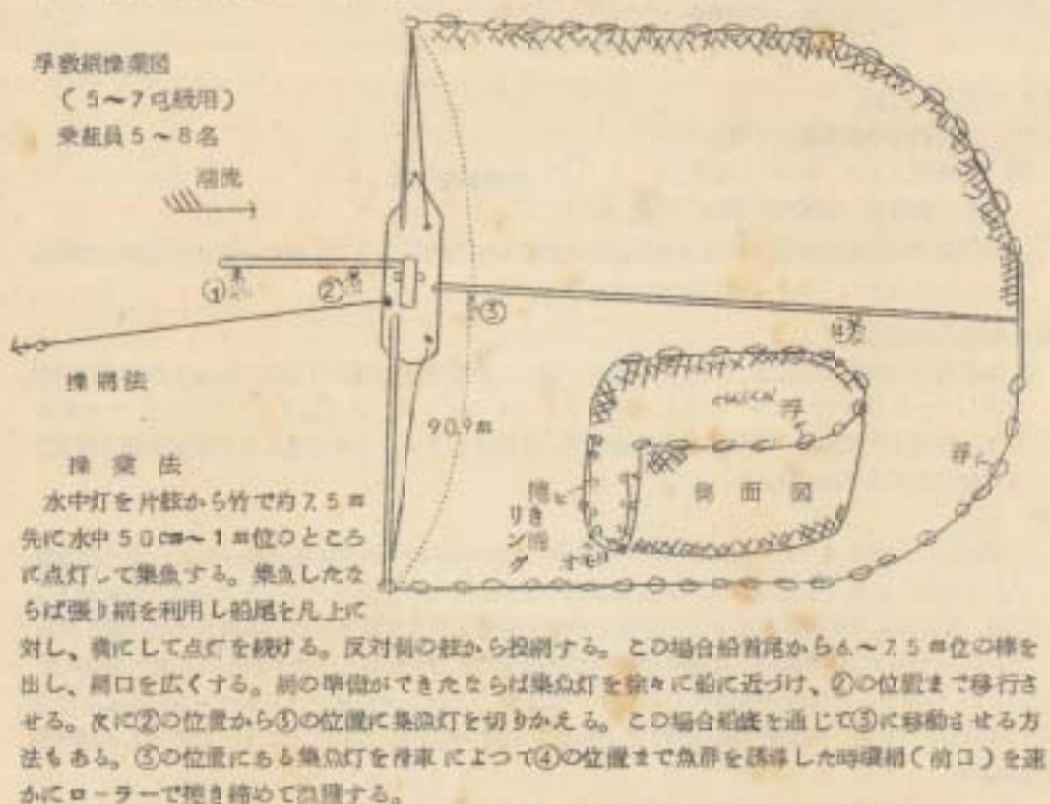
考 察

(1) 「アジ」資源が多量に集魚する状況から鑑別して火気利用集魚は適切を漁法だと考えられる。よつて併發網を使用する事により操業人員も節減され魚獲成績も上げられるものと思われる。

(2) 集魚灯の利用

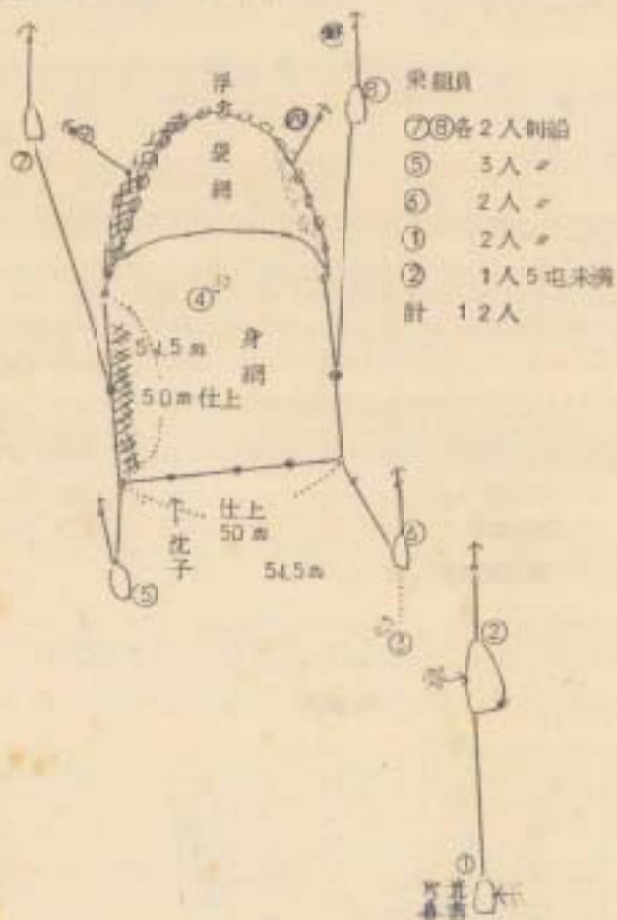
今回は水上灯を使って操業したが集魚状況は良好であつた。然し水上灯は天候や波浪、水色等の影響で水中での照度減少する事も屢々あるが、この場合は水中集魚灯を使用すれば効果的である。

なお、青白い電球を使用する事も考えられるが、光色の適否は今後の研究課題にしたい。



日本漁業を改良した特選漁網 所有の網での漁業図

①②で集魚した魚群を①の  
火舟で③の位置で両魚群を  
一併にまとめると同時に②  
は消灯す。こうして③の  
位置で魚群が漂着し始めたら  
徐々に④の方に誘導し、  
魚群が④の位置まで誘導さ  
れたら⑤⑥⑦⑧の各舟一併  
に手綱で網の前口を大きく  
上げて漁獲する。  
⑦⑧は袋網を張るための船  
である。



魚橋河

